

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
<b>合計</b>	<b><u>30</u></b>

事業所番号	2376200172
法人名	平成フードサプライ有限会社
事業所名	グループホーム 稲武の家
訪問調査日	平成 20 年 6 月 17 日
評価確定日	平成 20 年 7 月 18 日
評価機関名	福祉総合研究所株式会社

**○項目番号について**  
 外部評価は30項目です。  
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。  
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。  
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

**○記入方法**  
 [取り組みの事実]  
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。  
 [取り組みを期待したい項目]  
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。  
 [取り組みを期待したい内容]  
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

**○用語の説明**  
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
 家族 = 家族に限定しています。  
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。  
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。  
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	2376200172
法人名	平成フードサプライ株式会社
事業所名	グループホーム稲武の家
所在地	愛知県豊田市黒田町一色310 (電話)0565-83-3100

評価機関名	福祉総合研究所株式会社		
所在地	愛知県名古屋市中種区内山1-11-16		
訪問調査日	平成20年6月17日	評価確定日	平成20年7月18日

## 【情報提供票より】(20年 6月 9日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 11 月 1 日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	26 人	常勤 14 人, 非常勤 11 人, 常勤換算 5.5	

### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨・鉄筋	造り
	1 階建ての	階 ~ 1 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	28,000 円	その他の経費(月額)	13,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(200,000 円)	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,300	円	

### (4) 利用者の概要(6月9日現在)

利用者人数	27 名	男性	6 名	女性	21 名
要介護1	2 名	要介護2	12 名		
要介護3	9 名	要介護4	2 名		
要介護5	1 名	要支援2	1 名		
年齢	平均 87.4 歳	最低	74 歳	最高	99 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	古橋クリニック、北原医院
---------	--------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

山間部ののどかな場所に建つグループホームで、利用者も職員もゆったりとし、笑顔が絶えないホームである。去年新たに掲げた「目配り・気配り・安全確保」という理念のもと利用者の立場に立ったケアを心がけている。利用者の中には今までの趣味である編物や工作を続けており、居室がまるで工房のようにしている人もいる。家族もホームに対して信頼と安心を寄せている様子がアンケートで伺えた。法人内の研修やエリア研修を受講して、レポートを提出したり、包括の研修に出席して情報交換を行なうなど職員の育成にも積極的である。地域との交流も運営推進会議を通して密になり、地域に浸透しているホームであることが感じられる。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の改善項目の一つである地域ボランティアの受け入れは、運営推進会議で提案し、今では月1回ボランティアの人達が訪れている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回の自己評価は、職員一人ひとりが部分的に担当して書き入れ、最終的に管理者がまとめた。自己評価をすることにより職員の意識の向上につながり、日々のケアに直結したものとなるよう努めている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議の主な出席者は、家族代表・民生委員・地域包括支援センター職員などである。事業内容、現状報告、意見交換などを行なっている。運営推進会議を通して、ボランティアの月1回来訪の実現、またホームの情報を開示することによって、利用者や職員を紹介してもらえるような関係が構築されている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族の来訪時や必要に応じて電話などで、利用者の暮らしぶりや健康状態を伝えている。預かり金は来訪の際に確認して、サインをもらっている。家族からの要望や意見は職員が聞くことも多く、できるものはすぐに対応し、管理者に報告するようになっている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域の行事であるお花見やお祭りなどには、レンタカーを借りて出かけている。そのときは市の介護相談員にも手伝ってもらっている。ボランティアも月1回来訪して、三河万歳や大正琴の演奏などを行なっている。また民生委員には、ホームの掃除や草取り、ガラス拭きなどを手伝ってもらっている。現在は、ホームの食材は地元の業者に発注しており、地域とのつながりが密になってきている。</p>

## 2. 評価結果（詳細）

（  部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
		○地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念は「目配り・気配り・安全確保」を掲げている。これは昨年管理者と職員とで作った理念である。職員は利用者本人の立場に立ったケアを心掛けている。		
		○理念の共有と日々の取り組み			
2	2	管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関の見やすい場所に理念を掲げている。分かりやすく介護の核心をつくものであり、職員は日常理念に沿った支援をひたすら心がける事で良いサービスに繋がっている。その一つの現われとして、利用者には高齢者に多い骨折などはほとんど見られない。		
2. 地域との支えあい					
		○地域とのつきあい			
3	5	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域で開催されている、花見・お祭りなどの行事にはレンタカーを借りて出かけており、その際、市の介護相談員にも手伝ってもらっている。月1回ボランティアの協力を得て、三河万歳や大正琴などの演奏会を行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
		○評価の意義の理解と活用			
4	7	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、職員一人ひとりが部分的に担当して書き入れ、管理者がまとめた。評価の意義を十分理解し、自己評価も真摯な姿勢の取り組みが見てとれる。		
		○運営推進会議を活かした取り組み			
			2ヶ月ごとに運営推進会議を開催している。多面的な		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	話ができおり、出席者の紹介でボランティアの受け入れができたり、職員の募集についても協力が得られ採用に繋がっている。また、出席者である地域包括支援センターの職員を通して、利用者の紹介を受けるなど、有意義な会議運営が推察できる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	豊田市の会議に定期的に出席している。市からは様々な情報を得ており、民生・児童委員会ではグループホームの説明をする機会を設けてもらった。また、市の相談員が来訪して利用者と話をしてもらっている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪は多い人で週1回、少ない人で月1回程の割合である。来訪の際には、モニタリングを見せたり受診の報告や預かり金の小遣い帳を見せて、サインをもらっている。変化のある場合には、速やかに家族に連絡をしている様子がアンケートからも伺える。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からの意見や要望が言いやすい雰囲気を作るよう心がけている。職員やリーダーが聞いて、管理者に報告し対応すべきことはしている。アンケート結果からも家族の安心している様子が伺える。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ほとんど異動はない。日頃、職員が休みのときなどの応援をユニット間で行なっているので、職員と利用者は顔なじみの関係ができています。また、新しい職員は、日勤帯で一週間ほど勤務して顔なじみの職員と一緒にしてもらっている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修は受けている。エリア研修も年3回受講して、レポートを提出している。外部の研修はあまり受けていない。	○	今後は法人外の研修やパート職員の研修も進めていくことを期待する。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内のグループホームの職員と一緒に研修を受けて、話をする機会がある。また職員は包括の研修に出席して、情報交換をしている。	○	他グループホームとの交流を職員全員が万遍なく持てるよう期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居の相談を受けたら、本人・家族と面接し、情報を得た後、ホームを見学して納得のうえで入居してもらうようにしている。職員は入居後の2週間は様子を十分観察すると共に、他の利用者と馴染めるようにさりげない見守りと仲介役としてのサポートを心がけている。また、自宅での生活振りに近づけるためにはどのような支援が必要かなど、職員間での検討を行い援助して		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者から花の名前を覚えてもらったり、昔の話をしてもらうなど日常生活の中でその人の得意分野を発見したり教えてもらったり、共感できる関係を築いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は日常生活の中で利用者とコミュニケーションを図り希望や要望に添う支援に努めている。利用者の身体状況でむづかしい時は非言語コミュニケーションで相手の心を読み取り出来るだけ希望に添うよう支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は月2回のカンファレンスで話し合い、医師の意見などのもとで計画を立て家族に見てもらい、要望など聞き修正し介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3ヶ月毎に評価して見直している。更新は1年毎としている。しかし状態変化が見られる時は、本人、家族、医師と相談して職員はカンファレンスを行い随時見直している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	かかりつけ医への通院で家族ができない時には職員が対応したり、個人的な買い物などの付き添いをしている。また医療が必要になった時には同法人のケアセンターの受け入れの用意もある。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医とかかりつけ医との連携はできており、利用者の医療情報はホームに集約されている。かかりつけ医の受診は職員が対応する事が多い。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	法人としての重度化や終末期に向けた方針はあり、家族に説明しているが、ホーム独自の方針はまだ検討中である。	○	全職員で話し合い、医療頻度が高く重度になった利用者について、介護をどこまでが可能であるのかを検討されることを期待している。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者に対しては人生の先輩であり尊敬して、いつも感謝の気持ちを持っている。個人情報の保護については家族に説明して同意を得ている。職員は記録や情報が外部に漏れないようリーダーがまとめて管理している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	編み物が好きな人はいつもそばに毛糸が置いてあり、いろいろな色の組み合わせの帽子をつくっている。また居室が工房のようにになっている人もあり、各人がその人らしい生活を実現している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物、調理、配膳、後かたづけなど利用者のできる範囲で一緒に行っている。誕生会や行事食メニューの柏餅、おはぎ、五平餅などもできるだけ一緒に作るようにしている。食事は楽しい雰囲気では話が弾んでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間は13時30分～15時である。利用者は概ね1日おきの入浴となっているが毎日入る人もいる。いずれもゆっくり入ってもらっている。入浴拒否のある人は職員が時間をおき根気よく勧めている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は洗濯物干し、洗濯物たたみ、掃除、調理などその人に合う役割を見つけ支援している。また、利用者は編み物や工作、菜園など趣味を楽しんでおり、職員も教えられる事もありホームでの生活を快適に過している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日11時頃から散歩に出かけている。ホームは広い敷地がありベンチや椅子がおいてあり、そこで五平餅を作りみんなで食べる時もある。またふらっとドライブに行くこともある。家族と通院の時に外食をしに来る利用者もいる。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は鍵はかかっているが、ユニット毎の行き来の通路には施錠している時がある。	○	平屋建ての3ユニットの利便を活かして、職員・利用者の交流を図ることを期待する。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は年2回5月、11月に行っている。先回は消防署の職員の協力をえて救助活動を行い、非常ベルの使いかたなどの指導を受けた。		



外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分摂取量は記録している。栄養バランスも概ね取れている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	窓からは山が見え四季を感じることができる。畳スペースがあり掘りコタツとなっている。ソファで利用者が昼寝をしていたり、テーブルで編み物をしている人、テレビを見ている人、各人が居心地よく過ごしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	工房のようになっている人やコタツに入り昼寝をしている人、家族の写真や馴染みの物が置いてある人など、それぞれ個性的で居心地よく過ごすことができる工夫をしている。		